

医師の転職・アルバイト求人

ご希望に応じた求人探しをお手伝いいたします

掲載中 すぐ働ける先生大歓迎！時給1万円以上の日勤アルバイト情報

菅波

医療介護ニュース > 医療・看護

[PR] 給与が高い非公開看護求人をごコンサルが厳選！

AMDA菅波医師「正念場はこの1週間」

ツイートする



東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県釜石市に入り、救援活動の陣頭指揮を執っている特定非営利活動法人AMDAグループ(岡山市)代表の菅波茂医師が3月18日、キャリアブレインの電話取材に応じた。震災発生から1週間―。寒さや不安、食糧不足などで、避難所生活を送る人たちの疲労はピークに達している。菅波代表は、これまでの被災地支援の経験から、「正念場はこの1週間」と話す。

【関連記事】

被災地の医療機関に医薬品・機器の融通可- 厚労省

避難所への医薬品供給、自衛隊ヘリの要請も- 細川厚労相

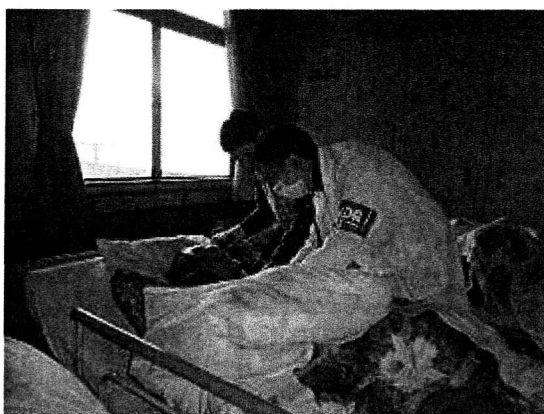
東京DMAT中島氏「地元につなぐ支援を」- 長期的なサポート訴え

「前線では医療資材、物資が完全に不足」- 眞野・宮城県病薬副会長

救急救命士の特定行為、被災地の事情に配慮- 厚労省

震災の一報はインドで受けました。予定をすべてキャンセルして、すぐに関西国際空港に飛びました。飛行機を乗り継いで新潟に回り、そこから仙台市までの約250キロを一般道で移動しました。

大規模災害が発生すると、AMDAは国内外を問わず速やかに現地入りし、救援活動を開始します。すぐに本部のある岡山市から1次派遣チームの4人(医師2人、看護師2人)を現地に向かわせました。AMDA支援者に登録している全国の医師や看護師に呼び掛



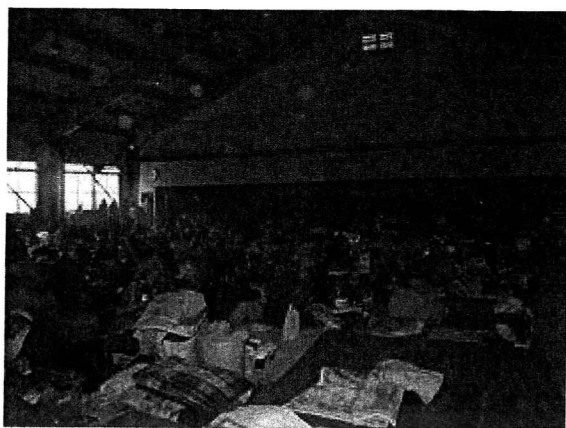
仙台市内の老健施設。ガンリン不足が深刻だが、移動が可能な範囲で巡回診療を行っている (AMDA提供)

け、きょうまでに延べ27人が被災地に入っています。

12日から15日までは仙台市に拠点を置いていましたが、16日からは、わたしを含めて一部のスタッフが津波被害の大きかった太平洋沿岸の岩手県釜石市と大槌町に移動し、200-300人規模の避難所に手分けして、泊まり込みで24時間体制の診察を行うとともに、それ以外の避難所では巡回診療に当たっています。

■避難所生活、疲労はピークに

震災発生から1週間が経過し、子どもや高齢者の体力の低下が目立っています。余震からくる不安などで、疲労もピークに達しています。一人ひとりが狭いスペースで寝起きしているため、子どもは疲れやストレスから熱を出したり、避難所によっては風邪の症状が広まったりしています。また高齢者は、環境の変化や寒さなどから不眠を訴える人や、冷えたパンやおにぎりを食べ続けることで胃腸を壊したり、便秘に悩まされたりする人が増えています。われわれが用意したビタミン剤や点滴にも限りがあり、現地で不足分を調達することはまず不可能です。とにかく急性期の患者を優先して、症状の悪化を食い止めることで精いっぱいです。



釜石市内の避難所。多くの人のごく限られたスペースでの寝起きを余儀なくされ、子どもや高齢者で体調不良を訴える人も増えている（AMDA提供）

公共施設にはかろうじて電気が通じているものの、ガソリン不足や道路の寸断などで食糧や日用品の調達が大幅に不足しています。これまでに、毛布や衣類、紙おむつ、生理用品、寝袋を、岡山県内のタクシー会社の協力で数台のジャンボタクシーに積めるだけ積み込み、約20時間かけて陸路で運びましたが、必要とする人に十分には行き届かないのが実情です。また、物資の輸送や暖を取るための燃料不足が深刻です。

■あと1週間をつなげれば…

阪神大震災でも、直後から被災地で救援活動に当たりましたが、その時との決定的な違いは輸送の困難さです。阪神大震災の時には、発生から約1週間でほぼ全域に支援物資などが届きましたが、今回の場合には1週間たってもなお、支援物資が届かない地域があるのが現状です。

しかし当時の経験から、あと1週間が目安と考えます。食糧と暖を取るための燃料や電気、最低限の治療に必要な医薬品は徐々に行き渡りつつあります。何とかしてあと1週間をつなぐことができれば、最低限のライフラインや輸送路が確保され、そこからの復旧はかなりスピードアップするのではないかと思います。